

シチズングループのCSR

シチズングループは、「市民に愛され市民に貢献する」との企業理念に基づき、「シチズングループ行動憲章」を定めています。この「シチズングループ行動憲章」をグループ従業員の一人ひとりに浸透させ、事業や社会貢献活動を実践することを通して、社会課題の解決に貢献することを「CSR活動」と捉えています。市民に愛され親しまれるものづくりを通じ、世界の人々の暮らしに広く貢献するという思いは、シチズングループの創業の原点です。以降100年にわたり、シチズングループは良い製品を提供することはもとより、すべての企業活動を通じて社会の要請に応え、必要とされ続ける企業であることを目指しています。

2019年度より開始した新たな「中期経営計画2021」

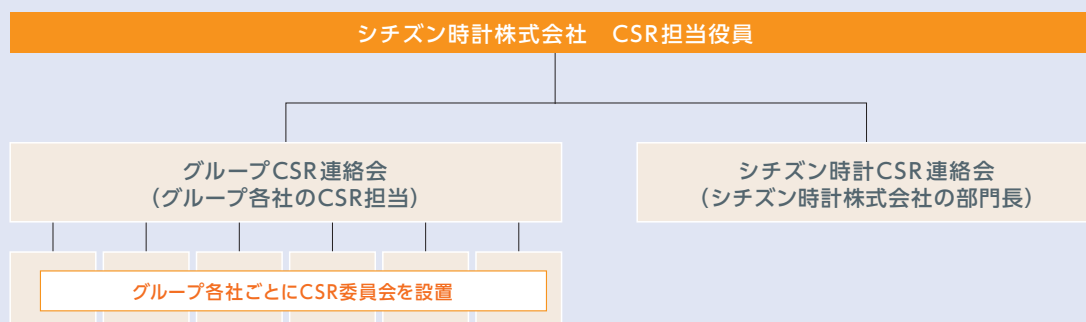
においては、重点施策のひとつとして、全グループでの「サステナブル経営」の推進を掲げています。社会の変化に対応した製品・サービスの創出のみならず、それらを生み出す調達や生産プロセスへの配慮、そして、全企業活動の根底を支えるコンプライアンスや人権、地球環境へ配慮した経営を通じ、ステークホルダーからの信頼を獲得しながら事業を拡大し、企業価値の向上を図り、SDGs等の社会課題の解決に寄与することを目指します。今後、取り組む社会課題については、企業理念や行動憲章、サステナブル戦略、「シチズン環境ビジョン2050」、各事業領域との関連性を鑑みて特定し、課題解決に向けたアクションにつなげるとともに、進捗については外部へ積極的に公開していきます。

CSRの推進体制

シチズングループは、事業持株会社のシチズン時計を中心に、「シチズングループ行動憲章」の浸透展開を図り、従業員一人ひとりが自らの原点を忘れず、社会のためにできることを日々積み重ねていけるよう、全員参加型のCSR活動を実践しています。シチズン時計のCSR室を中心とし、各グループ会社のCSR担当部門と連携し情報共有を図っています。定期的に行うグループCSR連絡会では、グループ全体としての活動の方向性や施策について協議するほか、各社の取り組み状況について確認を行うなど、グループ内でのベストプラクティスの共有も行っています。本取り組みが行動憲章に基づいたCSR活動を

行っている一方、新たに始動した「サステナブル経営」の推進においては、「サステナブル委員会」を設置し、製品・サービスを通じた社会課題解決への取り組みや各マテリアリティの施策を通じ、SDGsへの取り組みの推進を図っています。本委員会においては、シチズングループ全体のSDGsへの取り組みに関する重要事項についての意思決定を行います。委員会の事務局となるシチズン時計の経営企画部門及びCSR部門は、シチズングループのSDGsへの取り組みを推進する役割を持ち、委員会の運営のほか進捗管理、社外への情報開示なども行っています。

CSRの推進体制図



マテリアリティの特定と見直しプロセス

シチズングループでは、2017年度より国際社会の一員かつ、「真のグローバル企業」としての責任を果たし、持続的に成長していくにあたり、優先的に取り組むべきマテリアリティを特定しています。マテリアリティの特定にあたっては、SDGsや、国連グローバル・コンパクト、ISO26000、RBA (Responsible Business Alliances/ 責任ある企業同盟)、GRIスタンダード等のCSR・サステナビリティに関する原則・指針を参照するとともに、社会やステークホルダーにとって重要な社会課題を網羅的に把握し、また、シチズングループの企業理念や行動憲章、中期経営計画等の事業戦略と照らし合わせ、特に重要度の高い課題を特定することで、マテリアリティとして整理しました。2018年度は、創業100

周年記念企画としてシチズングループの従業員を中心に、次の100年に向けてシチズンのあるべき姿について対話を深め、「社会貢献活動の促進」をマテリアリティとして追加しています。更に2019年度には、前年度の不適切検査を受け、「品質への取り組み」を追加するとともに、従来の「コンプライアンスの強化」や「リスクマネジメントの徹底」についても、トップマネジメント層による統率の重要性を改めて認識し、「コーポレートガバナンスの強化」に統合し、「人権の尊重」を加え、グループ全体で取り組むべき6つの課題として設定しています。

今後は、取り組みをより実効性のあるものとするために、各マテリアリティに具体的な目標を設定していきます。

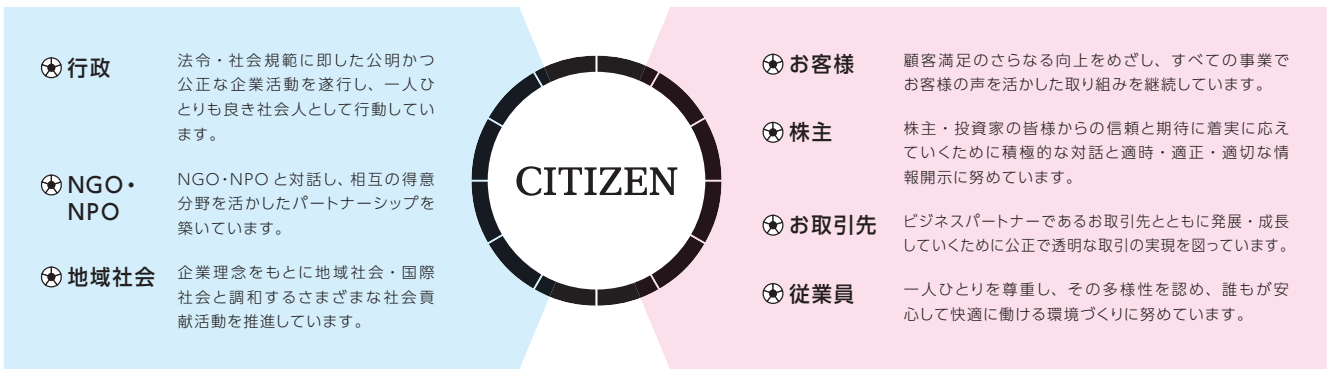
2019年度の新たなマテリアリティ

マテリアリティ		貢献を目指すSDGs
コーポレートガバナンスの強化	経営の透明性と健全性の確保のための内部統制システムの整備や、グループ全体での効率的な業務執行、及び適正な監督を通じてシチズングループの継続的な企業価値向上を目指します。	 
品質への取り組み	信頼性及び安全性の維持・向上を企業理念「市民に愛され市民に貢献する」の中核と位置づけ、ものづくりの全プロセスにおいて、実効性のある品質保証体系の維持・改善に取り組めます。	  
人権の尊重と労働慣行	グローバルにビジネスを展開する企業として、バリューチェーン全体にわたって、人権を尊重する責任を果たすよう努めます。また、多様性を認め合い、互いの能力を高め合う企業風土を強化し、誰もが安心・安全に働ける職場づくりを実践します。	   
責任ある調達の推進	グループ全体で調達活動の最適化を目指すとともに、バリューチェーン全体で、社会課題の解決を目指します。	     
環境イノベーションの促進	シチズングループの製品や、バリューチェーン全体の事業プロセスにおいて、環境に配慮した事業活動を行うことで、新たな価値の創出に努めます。	    
社会貢献活動の促進	シチズングループの従業員は、国内外の各地域における社会課題と向き合い、「学習・教育」「環境」「スポーツ」「災害支援活動」の分野を中心に、社会貢献活動に取り組むことで、地域社会との共生を目指します。	     

ステークホルダーとの関わり

シチズングループは、様々なステークホルダーに支えられながら企業活動を行っています。また、企業理念である「市民に愛され市民に貢献する」を実現するために、日々ステークホルダーとコミュニケーション

を図っています。社会から信頼を得ながら、価値を提供し続けることができる企業を目指し、ステークホルダーの皆さまとの関わりを大切にしています。



ステークホルダー・エンゲージメント

シチズングループは、社会への提供価値を最大化するためには、様々なステークホルダーの要望・期待を経営に取り込み、的確に応えることが重要であると考え、ステークホルダーとのコミュニケーションを図ることで、企業理念の具現化を目指しています。創業100周年を迎えた2018年度は、シチズングループ

の更なる進化のきっかけの年とすべく、新たな取り組み「シチズン社会貢献活動派遣制度」を開始しました。従業員が活動先のNGO・NPO、地域社会等との連携を通して視野を広げ、社会課題を知り、新たな価値観を取り入れて組織の活性化に繋げてまいります。

ステークホルダー	エンゲージメント方法 / 内容	実績 / 評価	対応 / 計画
お客様	シチズン時計お客様時計相談室に寄せられるご意見、ご要望への対応	お客様時計相談室へのご意見数 8,312 件	お客様の声を活かした商品、改善の検討、今後の課題、計画
	公式WEBサイト、商品 WEB サイトで会社情報 事業内容の発信 各種SNSで会社情報 事業内容の発信	facebook フォロワー数約 1,600,000 人 (シチズン時計グローバルアカウント)	お客様に役立つ情報の発信と公式 SNS でのコミュニケーション
株 主	株主総会 / 投資家との意見交換 / 各種レポートを通じた情報開示 / 決算説明会の実施 / 投資家向けにWEBサイトを通じて情報発信	株主数 31,240 人 / 投資家との個別ミーティング 127 回	ESG に関わる情報開示を通じた株主価値の向上
お取引先	CSR 調達ガイドラインに関する説明会実施	説明会は計画通り実施 / 2019 年度からサプライヤーアンケート実施に向け、グループ内説明会を開催	サプライヤー説明会を計画 / 人権デューデリジェンスの試行
	販売店への商談会での製品情報の提供	展示会用の情報発信ツールが好評を得て、販売店にて活用	相互発展のための情報共有と関係の構築
従業員	グループ社員の集い / 従業員満足度調査の実施 / 上司との面談 / 労使間協議 / 社内イントラネット	グループ社員の集いの参加者約 6,000 人 (創業 100 周年記念イベント)	従業員満足度の向上 / ワークライフバランスの制度拡充 / 安心して働ける職場環境の整備 / 最大限の能力を発揮できる環境の整備
NGO・NPO	社会貢献事業での連携	協働での社会貢献活動派遣の実施回数 16 回、従業員のべ 210 名参加	社会貢献活動派遣成果報告会を開催
地域社会	地域貢献活動 (時計組立教室の実施、寄付やスポンサー活動を含む) / 地域のイベントへの参加 / 工場見学の受け入れ	美化活動への参加社員数 175 回のべ 3,600 名 / 工場見学の受け入れ 214 回 / 時計組立教室の開催 61 回 / 社会貢献活動の寄付金額 43.8 百万円	地域の方々を招待し、事業所内でのイベント開催 / 相互理解を図り、安定した地域社会形成への貢献 / 事業を通じた地域貢献活動の充実